

13. 80歳以上の超高齢者に対する開心術症例の検討

越谷病院 心臓血管外科

田中恒有, 入江嘉仁, 秦 一剋, 権 重好,
千葉知史, 長磨美子, 今関隆雄

【目的】80歳以上の超高齢者の開心術後の臨床経過を比較検討した。

【対象・方法】2001年7月から2005年6月までの80歳以上の開心術22症例を対象とし, 術前診断, 術前状態, 術前危険因子, 施行手術を分類し, 術後合併症, 術後死亡率, 入院日数などについて比較検討した。

【結果】平均年齢83.8歳, 男性13人, 女性9人, 緊急16例, 定時6例, 術後早期(30日以内)死亡9%, 後期(30日以降)死亡14%であった。入院日数と術前状態の相関では, ICU滞在時間, 合併症数, 人工呼吸器管理, 経口摂取の遅れに有意差を認めた。

【結論】超高齢者における開心術では良好な結果が得られた。周術期のさらなる全身管理を行うことで, 術後成績は向上すると考える。

14. マグネシウムの推移

救急医学講座 集中治療室

根本真人, 岩田健司, 神津成紀, 片塩 仁,
小林光太郎, 中村卓郎, 小野一之, 崎尾秀彰

【目的】開心術後ICU在室期間が長期化した症例において, 血清中総マグネシウム(総Mg)とイオン化マグネシウム(Mg^{2+})の解離を認めた。今回我々は, 予定開心術症例において血清中総Mgと Mg^{2+} の解離を認めるか検討した。

【方法】予定開心術患者($n=5$)に対して, 術前, 術後, 術後数時間後, 術翌日に総Mgと Mg^{2+} を測定し検討。

【結果】総Mgと Mg^{2+} の解離を2症例認めた。Off-pump CABGにおいては総Mgと Mg^{2+} ともに低下を認めた。

【考察】総Mgと Mg^{2+} の解離が認められた症例においては, 早期に改善が認められたため, Off-pump CABGでの総Mgと Mg^{2+} の低下を認めたが正常値下限であったため良好な術後経過をとったと考えられる。

【結論】 Mg^{2+} の低下には他の原因が考えられ, 今後検討が必要である。